

クルマの
思い出
1

相棒 wish

ジミー田中

20 年前、愛知万博に間に合う様にネットヨタ山梨で新車のウィッシュ XS パッケージを納車してもらいました。あれから 20 年、二十歳の成人車を迎えこれからも一緒に人生を免許返納になるまで付き合いたいです。

博物館と同じだね
おめでとう！



クルマの
思い出
2

思えば、2歳からアメ車を
乗り回していたという事実

鈴木 健之

1960 年頃に祖父からプレゼントしてもらった、日本橋三越から届いた子供用ペダルカー（全長 110cm・全幅 48cm）がメッチャお気に入りで、一部の部品を外して 10 年近く乗っていました。

当時は「キャデラック」だと思って乗っていましたが、改めて調べてみると、1950 年代の華やかなアメリカ車をイメージして作られた高級乗用玩具で、「ARAMOTO 製 Kotakara ペダルカー」だと判明。当時の「キャデラック・エルドラド」と「シボレー・ベルエア」のイイとこ取りのデザインです。

私とクルマとの思い出
といえば、まず、このペ
ダルカーの出会いから始
まります。



クルマの
思い出
3

間近で見たロールスロイスの
オープンカーによる、1993年6月9日皇太子殿下
（現：第126代徳仁天皇）御成婚パレード

鈴木 健之

「結婚の儀」「朝見の儀」の後、皇太子さまと雅子さまは、皇居・宮殿から新居となる港区元赤坂の東宮仮御所まで約 4.2km のコースをパレード。新宿通り麴町一丁目付近の最前列で、初めて間近で見る御料車のオープンカー（ロールスロイス コーニッシュ III）はゴージャスでした。

この日の朝は雨でしたが、パレードの時間が近づくにつれ、皇太子ご夫妻を祝福するかのように薄日が差し込み、天気は回復。午前中早



くから現地に行きましたが、大変な混雑でかなり後ろに並びましたが、観覧区域が広がったのを機に一気に前に出て最前列を確保。雅子さまのローブデコルテにティアラがメッチャ映えていましたね。沿道には約 19 万人が詰めかけたとか。

クルマの
思い出
4

皇居を御出発される2019年11月10日
天皇陛下の即位に伴うパレード
「祝賀御列の儀」の約400m車列

鈴木 健之

あの御成婚パレードから26年。今回は、天皇陛下の即位に伴うパレード「祝賀御列の儀」の車列が見たくて、間近に見える沿道ではなく、あえて丸ビル35階(約180m)からの俯瞰を選択。

前後を各5台の警視庁の白バイ、各3台の皇宮警察護衛隊のサイドカーに挟まれた、天皇・皇后両陛下がお乗りの御料車(新型センチュリー特別仕様オープンカー)が認識できます。

車列は乗用車24台(オープンカーおよび先行車と後押さえの警備車両を含む)と白バイ20台およびサイドカー8台(警視庁1台、皇宮警察7台)の計52台もの車両で構成され、先行車と後押さえを除いた車列の長さは約400mにおよびました。圧巻でしたね。



山梨で同じ1966年（昭和41年）
生まれの奇跡のコラボ

鈴木 健之

1966年に竣工した丹下健三氏設計の「山日・YBS 本社・山梨文化会館」（地上8階地下2階直径5mの16本の円柱シャフトによる構造は、丹下氏の「建築設計は小さな都市づくりであり、都市設計は大きな建築設計である」という持論を、具現化したものだとか）と、1966年製造の山梨交通が所有する「ボンネットバス いすゞ TSD40」（全長:7.51m、全幅:2.45m、高さ:3.16m、総重量:7,795kg、排気量:6,120 cc、定員:33名、現役でイベントでの展示や出前授業で使用）との奇跡のコラボが実現。

「やまなし公共交通フェスティバル」終了時に、バスが文化会館前を通り、敷島営業所に帰るところを撮影。



ブルーライトヨコハマ

伊佐治 庸子

いしだあゆみのブルーライトヨコハマが流行っていた頃。母の作る甘い麦茶で虫歯だらけになってしまった私は、下校すると山梨市の自宅前にあったバス停から一人で山交バスに乗り、甲府城東にある歯医者に通った。そこは甲府生れの母のイチオシの歯医者。痛くて怖い治療を終え、ヘトヘトになって乗り込む帰りのバスは既に夜。薄暗い室内灯にポツポツ灯る街の灯りですっかりセンチな気分になった私は、いつもブルーライトヨコハマを口ずさみながら窓から外を眺めていた。「笛吹一軒家」「一丁田中」とバスは進む。いつしか寝付いてしまった私を顔馴染みになった車掌さんが毎回優しく起こしてくれた。「ヨーコちゃん、着いたよ。」7歳の時の色褪せぬ思い出。

約半世紀前、
愛車「マークⅡ 1700」で訪れた河口湖

齋藤 淳

初めての愛車トヨタ「マークⅡ」。父が購入し数年乗った後、兄にお下がり、その後、さらに弟の私にお下がりとなった家族の思い出が詰まった車…

当時クラウンとコロナの中間車種だった「マークⅡ」は2000ccが主流、愛車は廉価版の1700ccでしたが、流行の2ドアハードトップでスポーツグレードのGSS似でしたので、顔つきは特にお気に入り。

写真は昭和53年の夏、私は18歳、初めての遠出、当時住んでいた相模原から訪れた「河口湖」の湖畔駐車場。先日この湖畔に再び訪れたところ、約半世紀が過ぎても今も変わらず同じ旅館などが立ち並ぶ風景を見て懐かしさが溢れました。

「あの頃の車は頑丈だったので、よくボンネットに腰かけて、景色を眺めたね。」



最高の宝物

ジョン けけ

まだ戦後が残る東京に出て額に汗して車でかっ飛んでいた父が同郷の母を迎え兄と私をもうけました。兄の小児喘息で転地療養することとなり東京湾界隈を車で走り続けたかったであろう父の思いは蒲田に置いて甲府へ引っ越してきました。住まいも落ち着き、ときたら、買いました。自家用車。「月賦が大変だったのよ」と母は当時を思い出して苦笑いしていました。父はよく両親の実家の（山梨市）牧丘町に連れていってくれました。帰りのでこぼこの夜道はまるで



アトラクションのように楽しくて兄と私はいつの頃からか車も父の運転も大好きになっていました。昭和41年の七五三祝いに庭で撮った亡き父のその車との写真は私の最高の宝物です。

こんなに長い付き合いになるとは…

畑野 薫

私は23歳から23年間、競輪選手として人生を歩んで来ました。車にバイクは小さい時から好きだった。デビューして3年そろそろ好きな車を買おうと何にしようかとワクワクしながら考えてました。カウンタックにフェラーリ、スポーツカー全盛期に育った幼少期、もちろんスポーツタイプしか目がいかない。そんないくつか候補の中でスカイライン32GTRの後ろ姿が好きになり購入、新車でなく当時中古の値段が下がり出したR32。レースに参加の為、東はいわき平競輪場、西は向日町競輪場まで一緒に行きました。1番多く行った競輪場は新潟の弥彦競輪場でした。成績の良い時は気持ちよく運転して、悪い時は荒れた運転になったりもした。どうしても欲しかった車でもなかったのに…引退まで一緒にとは思いもしなかった。それから10年、まだあきずに乗っている。定年まであと数年、定年と一緒にスカイライン32GTRとの付き合いも終わりにしようとするこの頃です。

岡 政樹

車に乗って、家族や友人と出掛けた各地での思い出はたくさんありますが、乗る車の調子がよくなければ、どこにも出掛けることができません。いつも、お世話になっている、Tさんはいつも、丁寧に車の整備をしてくれます。配線が複雑な新しい車も今では部品の入手が困難な車も、不具合箇所を特定して、車の調子を整えることができるTさんは正に「クルマのお医者さん」だと思います。



車は家族のアルバム。

小林 昭子

10年前に他界した父は大の車好きでした。子どもの頃の写真はいつも車の前。七五三も入学式も成人式の日も。この写真は子どもの時に撮った写真の中でもお気に入りの写真です。現在は育児や家事におわれる日々。今は子どもの写真に夢中で、自分の子どもの頃の写真を見返す事が少なくなりましたが、この写真は頭の中にずっと残っているシーンです。幼い時の淡い記憶、父との思い出。すべてが車と共にあります。



足跡、共に歩んだ14年

匿名希望

今春、14年生活を共にした愛車のコルトを手放すことになった。私が、初任給で購入した車だった。この車には、今の私を形作ったと言っても過言ではないぐらいの、たくさんの思い出がある。

夫と初めて出会った時もこの車で待ち合わせ、子供を授かった時もこの車で健診に行き、子供が誕生してからは、この車であちこちらに出掛け、私はもちろんのこと、子供たちにも愛着があった車だ。

手放す当日、子供たちと「今までありがとうね。」と、愛車に感謝の気持ちを込めて笑顔でお礼の言葉を伝えた。

私の人生における大事な節目を見守ってくれていた、家族のような存在を失うのは寂しい。しかし、私と子供たちの心の中では、これから先もずっと、色鮮やかに残り続けていくことだと思う。

人生最高のドキドキ

須藤 早苗

昭和 37 年、私 17 歳、その頃谷村の町には車も数台しかなかった。でも 18 歳の彼はその時すでに車を運転してました。学校帰りのある日、車で送ってもらった時のこと、助手席でドアの開け方も知らない私に、おりる時、身を私の目の前にのり出して、運転席からドアを開けてくれた彼。私の肩にうでが触れ、彼の息遣いが…！瞬間、私の心臓はドキドキ！爆発しそうに成りました。今でもおぼえている、数秒の出来事！それが私たちの 2 人の人生の始まりでした。



後に病にたおれた彼。今、私はおいてけぼりです。数々の思い出を残して、いなく成ってしまいました。そんな彼が人生、数十台の車を乗りついで来た中でのファーストカーがこの、スズライトでした。思いはひとしおです。

クルマとの思い出

酒井 鈴江

ミストラルという車。20年で38万キロになる。その車が突然、ラジエターがこわれ白い湯気がとびだした。でも修理ができなかった。「どうしよう」あきらめるしかなかった。その時は大好きだった義兄が病気で、その車で病院へ送る。その車の最後が送っていくことだった。次を買うのは軽。義兄との約束「4WD 色は黒 ステッカー 雪に強くしっかりした車」要望通り買う。一日一日看病が続く、でもダメだった。7月1日「力つきて」この世を去ってしまった。

今乗っている車は小さい軽になったけど、その時のミストラルが忘れられない。ぜったいこの車で家に連れて帰る。でも忘れられない。かなわない願いだけどかなえない。兄をこの車でもう一度...



愛車は愛娘と同級生

古屋 幸男

「ブルブル…ゴー」マークⅡ独特のエンジン音が響く。すると必ず家の中から「あいちゃんも行く〜！」と娘の声が聞こえ、いつの間にかチャッカリ助手席にすまし顔で座っている。

マークⅡの購入理由はスポーティーなスタイルと気品・豪華を兼ね備えた車内空間。私の憧れの長嶋茂雄が当時、この車のコマーシャルに出演していたことなどである。さらにお気に入りサンルーフ。車内換気はもちろん、抜群の解放感、爽快感は二輪車と同じ。

走行距離約 34 万キロ、地球 8 周半、年齢 36 歳。人生 100 年時代、車も 50 年時代。これからもメンテナンスを怠らずに乗り続けるつもりでいる。そして、愛車に最も思い出がある愛娘は近々一児の母となる。



私とスバル 360

伊藤 哲朗

私は昭和 20 年生まれの 80 歳です。免許を取って 60 年間、大きな事故や違反もなく通してきました。

30 歳の時に結婚し、妻がスバル 360 を乗ってきました。スバルは加速もよく、富士重工社の良さを実感できる車でした。その車で妻と熱海へドライブに行った時には、峠でエンジンが焼き付き気味で帰宅にはトトロと 9 時間掛かったのは、今でもイイ思い出です。

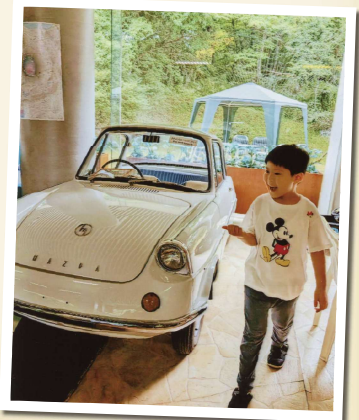
雑誌の取材を受けたり、イベントに参加し、埼玉県からの全日本ダットサン会との交流があり、とても楽しかったです。たくさんの思い出のある車でした。残念乍ら今は手放してしまいましたが、私にとって、今でも、いつまでもあこがれのスバル 360 です。



ぼくは車が好き

小林 瑞貴

ぼくの好きなものは車です。なぜかわからないけどお父さんも、おじいちゃんも、おじちゃんたちもみんなが好きだからかなと思います。とくにカッコいいと思うのは昭和時代の車です。旧車は角ばっていてあじがあるところがポイントです。休みの日にはお父さんとお母さんと旧車のイベントに行ったり、車のミュージアムに行くことが好きです。これからたくさん車を見に行きたいです。いつか車かんけいの仕事をしたいと思ったりするけれど、まだ先だからゆっくり考えようと思います。写真は毎年夏に行く河口湖自動車はくぶつかんのです。



若かりし自分と相棒

小林 秀俊

こちらは約20年前に所有していたトヨタのカローラレビン（AE86）です。中古で購入した時の走行距離は10万キロを超えていましたが、元気に走り回ってくれました。こちらの写真は友人と韮崎市のスポーツランド山梨に行った時の物です。現在は7歳の息子がおり、息子も古い車が好きで、各地の自動車博物館や旧車フェスティバルがあれば、息子と一緒に出かけています。昨今の旧車ブームからAE86も高騰しており、補修部品も入手が難しくなっており、購入や維持はなかなか難しいと思いますが、また機会があればこの車を所有し、息子と一緒にドライブやメンテナンスをして見たいと考えております。



楽しかった青春時代

早川 健一

1968年、地元の高校を卒業して埼玉県の人に就職しました。車の好きな友人がいて、すぐ埼玉で車の免許を取りました。当時は、高校卒業の初任給が20,000円ぐらいでした。車はとても高嶺の花でした。仕事に頑張って、とりあえず甲府の友人のお兄さんからマツダのキャロルを中古で譲っていただきました。

まだ中央道も圏央道もないので、国道20号線を通って笹子トンネルを抜け、甲府と埼玉を行き来しました。八王子に出て16号に入ると右手に横田基地が延々と続きます。とくに土・日は大渋滞です。当時はガソリンは50円くらいです。なにしろ、車を持って、女の子にモテたいそんな単純な青春時代です（スマセン）。

もう今年で75歳になりますが、楽しかった時代です。ちなみに車の写真の駐車場は大宮公園サッカー場（今のNACK5スタジアム）です。今では甲府市に帰って来て頑張っていますが、サッカーも好きで、この大宮公園で何度も試合をする事が出来ました。社会人で埼玉県のNo.1にもなり、すばらしい車、キャロルにも出会い最高に楽しかった青春時代です。



「詩」愛車との別れ

尾崎 己代子

愛車は四十余年もの長きに渡り
私と共に「いや」とも言わず快適に
走行
初心の私を導いてくれました
常に愛車と共に職場へ買物にと
暑い日寒い日 雨風も苦にせず
数えきれない程に働いてくれました
職場の移動にも対応できたこと
いつも私の暮らしを支えてくれたの
です

しかし 私も高齢になりました
愛車にも同様疲れが見えてきました
車検と修理に高額な費用が必要になり
私の年齢を考慮して返納を勧められる

家族も大事故を起こさないうちにとの
事から廃車を決断したが
「新車で求められた時の感動等忘れないよ」
しばらく暮らしの不便さはあるが
ゆったりとした余生の生活へ切り替える
共に働いてくれた愛車
「スズキのアルト車よ ありがとう。
別れはさびしいよ」
私は車内の点検をしたり
車体に触れて
暮らしを活躍させてくれた愛車に
感謝のメッセージを送りたい

初代マイカー：
ニッサンチェリーFⅡ

橘田 重男

免許取得を記念して、両親が購入してくれた初代マイカーは、中古車ニッサン「チェリーFⅡ」でした。今から45年前の1980年の事です。当時20数万円の中古でも大変嬉しかった思い出です。養蚕が主業で、裕福ではない生活の中、両親が気張ってくれたのです。私はまだ大学生でしたが、両親共免許がなかったので、家族の「足」としても期待してくれたようです。



チェリーは、今では多いFFの先駆けでした。パワステはなくハンドルが重かった。しかし小回りが効き、燃費も良かった。家族の用事に加え、当時の彼女とのドライブで県外にも行きました。

あれから8台乗換えていますが、初代チェリーは、かけがえのない1台です。ありがとうチェリー。

大好きな、父の愛車!!

梶原 美鈴

一番の思い出の車は、亡き父が乗っていたスカイライン GTX です。通称「ケンメリ」、今はカスタムされ弟が乗っています。昭和47年弟が産まれた年に父が購入した車です。小さい頃助手席と運転席の間にある物入れが私の指定席でした。弟は赤ちゃんだったので後ろのダッシュボードを、ベット代わりに寝ていました。学生時代友達に「お父さんの車かっこいい!!」と褒められたり、学校に迎えに来てくれた時など本当に嬉しかったです。

その証拠に私も弟も父が亡くなるまで一度も運転させてもらえませんでした。(笑)

最後まで父と仲良しだった車。父が亡くなる前、母を助手席に乗せて、私の家まで訪ねてきた時の自慢げで嬉しそうな姿!! 今でも鮮明に思い出されます。

